metso

高品質・生産性向上が可能な新型コ

れわれにとって地震は避け

会がその一助になればよ く必要がある。今回の見学 知恵を出し合って考えてい

効果などの説明が行われ

見学会終了後には、ホテ

大塚尚寛会長

その後、北日本採石興業

ズの特長や納入事例、導入 ーンクラッシャHPシリ 三氏が講演を行い、新型コ 産機械・田戸一宏氏)―の

時間は貴重な資源

計を検討していかなければ

▽「二〇一五年度HP関連

参加者は新型コーンクラッ ㈱黒川工場にバスで移動。

も参加した来賓の骨材資源 れた。この中で、見学会に ルルイズで懇親会が開催さ

ある。砕石事業者の方々に

できるという貴重な資源で 社に必要なものを取捨選択 な情報を多く入手して、 今回の見学会を含めて様々 ならない。そして、情報は

工学会会長(岩手大学工学

続いて、説明会に移り、

▽メッツォ社技術講演「H 部興産機械·横田健二氏)

やHP500コーンクラッ C160ジョークラッシャ

に立ち「企業には人・物・ 部教授)・大塚尚寛氏が挨拶

営と社会資本整備に尽力し

最新情報と適用例」(同=

している。地震国に住むわ より、大規模な被害が発生 昨日発生した熊本地震に 不万寿夫氏が挨拶に立ち

(第三種郵便物認可)

Nordberg HP5

ンクラッシャ「HP5」

コーンクラッシャ説明会」 のホテルルイズで「HP5

フラ整備は必要であり、そ

最小限に抑えるためのイン

ーム・ランベルト氏) ▽

の村松社長からHP5の導

ら見学。この中では、同社 業所各所に移動して車中か

設備投資に使う『金』が必 であり、企業運営の資金や

要となるのは言うまでもな

説明を受けながら視察し どについて現場担当者から

社の生産工程や稼働状況な

た。

さらにバスで切羽や事

含まれる。また人は『人材』

今回のクラッシャもことに おいて『物』は設備であり、 と言われるが、砕石業界に

のためには砕石の安定供給

新型コーンクラッシャHP 「北日本採石興業㈱納入の

があったほか、活発な質疑

源だ。この時間を有効に使 戻って来ない一番大切な資 と『情報』がある。時間は な経営資源として『時間』 い。この三つに加え、必要

い、企業の先行きや将来設

掘の内容などについて説明 隣二社と行っている協調採 緑化等の各種取り組み、近 入効果、同社の設備概要や

が必要不可欠だ。その砕石

が開催された。

砕機グループリーダーの高

かを砕石事業者、関連機関、 をいかに効率的に生産する

われわれメーカーの三者が

冒頭、宇部興産機械㈱破

村松寿徳社長

機宇部興産

長)黒川工場およびホテルルイズにおいてメッツォ社の新型コーンクラッシャ 参加した。当日はメッツォ社のHPシリーズ統括責任者から同社の破砕機の特長 に関する説明が行われたほか、北日本採石興業においてHP5の実機の稼働状況 HP5』 の見学会を開催、 全国各地の砕石事業者やディーラーなど約七十人が 宇部興産機械㈱は四月十五日、岩手県盛岡市の北日本採石興業㈱(村松寿徳社

興業が導入石粉発生量は半減北日本採石石粉発生量は半減

工場を建設して砕石事業を

において全国で初めてのこ 石採取認可取得は砕石業界 岩手中央砕石㈱と㈱石名坂 得。この隣接同業者との岩 による採取計画認可を取 年には隣接する同業者の 同社は平成十三年から岩 同社の原石は輝緑岩で、

手中央砕石と業務提携契約 (七月決算)の出荷量は六十 調に推移してきた。 昨年度

説明会開く「HP5」

村松社長が導入効果説明

北日本採石興業㈱に改組 して創業。同四十一年には 十五年に「村松砂利店」と 北日本採石興業は昭和三

とだった。

四十五年三月から黒川

の影響もあり、ここ数年堅 等)―などの製品を供給し いては安倍政権の骨太政策 ▽その他(岩ズリ・割栗石 盛岡市内を中心に▽コンク

ク』を使用していたが、近 『84GDジャイラディス 従来はこの三次破砕機に 北日本採石で稼働状況を視察

い状況が続いているといは一五%減となるなど厳し

同社の生産フローは切羽

などで対応してきた。

まで破砕。それを二次破砕 ャ』で二〇〇『アンダーに 機『HP500コーンクラ バアンダー) を一次破砕 **で160ジョークラッシ** 式コーンクラッシャ『HP 砂の増産と石粉の発生抑制 そのような中、同社は砕

る。生産能力は時間あたり 次破砕機で再破砕してい 品化している。なお二〇『 まで割り、三次破砕機で製 オーバーはリターンし、 ッシャ』に投入して六〇『



生産された2005(上)と砕砂 二〇ジオー が従来の半分(ダンプトラ 減少するなど、生産性が大 ック換算で四台分)にまで

2005が五八%▽砕砂が 4GDと同等の品質を確保 五六%―となり、従来機8 きく向上した。 ヘッド径を小型化したため した。このほか、HP5は また粒形判定実積率は▽ その性能を高く評価した。 品の歩留まりが限りなく一 00%に近付いた」と述べ、 たことで、プラントに投入 また石粉の発生量が半減り き、非常に満足している。 した原石から生産される製

ことに加え、副産される石 年砕砂需要が増加してきた 働が始まっている。

クト化と軽量

砕砂生産量2%増

リに混ぜる等)させること が、このうち製品化(岩ズ ぎず、残る四台分は埋戻し ができていたのは半分に過 算で八台分発生していた 粉の処理にも苦慮してい においてダンプトラック換 量を維持しながら二〇『ア め、従来と同等の原石通過 アンダー率を大幅に向上さ 機84GDに比べてセット せることが可能となったた この結果、HP5は従来

加した。これに伴い、生産 の二百三

ジ

特
と

大幅

に
増 ンダーの発生量が三五%増

増の五十少にそれぞれ増産 量は2005が三八%増の した。さらに三次破砕機の 百五十三少、砕砂が二八% 率は低下し、 石粉の発生量 長は「不足気味だった砕砂

ラント設備と切羽

GDに比べ約

三分の一とな

総重量は84 化を実現し、

北日本採石興業のブ 図れるとい ストの低減も れに伴い、メ ンテナンスコ っている。と 今回のHP

5の導入につ いて、村松社



の増産、品質の確保、さら

■ HP100で7号(5~2.5 ° ヮ)を原料に砕砂を生産すると

生産量

30t/h

量を半減させることがで

には副産される石粉の発生

粒形判定実積率

59%

製品歩留り

90%以上

消費動力

50kw/h

(関西地区A社での実績データ)

UBE 宇部興產機械株式会社 http://www.ubemachinery.co.jp

産機サービス部破砕機グループ

〒755-8633 山口県宇部市大字小串沖の山1980番地 TEL(0836)34-5942 FAX(0836)22-6110

北海道サービスセンター TEL(011)789-1170 FAX(011)784-4501 東 北サービスセンター TEL(019)632-6151 FAX(019)632-6152 大 宮サービスセンター TEL(048)652-6531 FAX(048)652-6532 大 阪サービスセンター TEL(072)623-1173 FAX(072)622-6132